

「アスベスト被害を防ごう」 シンポジウム開催

2013年10月9日に、「なくせじん肺・アスベスト全国キャラバン福岡県実行委員会」主催で、『建物解体によるアスベスト被害を防ごう』と題したシンポジウムが開催され、衛生工学技術士、弁護士、労働組合、九州アスベスト訴訟原告団、社医研の田村所長がパネリストとして参加しました。パネリストからは「これから古い建物の解体工事が増えるが、費用や複雑な行政の手続き等の問題で、調査や届け出がされていない」「行政は市民へアスベストのハザードマップ(災害予測図)で周知すべき」「アスベスト被害を防ぐためには市民が“知る”事が大切」「元をたどれば国と企業がアスベストを広く流通したため」「国と企業に責任を取らせたい」等の発言に、会場は恐ろしいこの実態をもっと多くの市民に知らせなくてはならないという空気に包まれました。



危険な建物解体時の飛散

アスベストは国際的にはその有害性で早くから使用が禁止されていました。しかし、日本では2006年にアスベストの完全使用禁止まで、建材をはじめ家庭製品まで広く



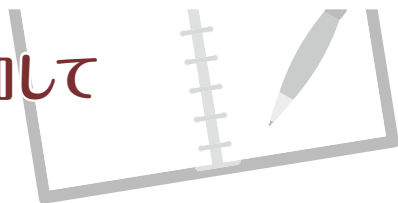
使われていました。一般的にアスベストが含まれていても破壊しなければ空気中には飛散しません。危険なのは建設現場でアスベスト含有建材を加工する作業や、建物解体時の破壊による飛散です。現場で働く建設労働者は十分な説明や対処もないままアスベストに曝露され、現在多くの建設労働者が中皮腫をはじめとしたアスベスト災害に苦しんでいます。

今回のシンポジウムが指摘した重要な点は、建設労働者だけでなく老朽化した建物解体によるアスベストが周辺地域へ広がっているという事実です。そして、このことは市民にほとんど知らされていません。行政はまったく消極的で市民への安全配慮は無いに等しい状態です。

アスベストの危険を承知のうえ建設労働者をはじめ国民を危険にさらした国と製造企業の責任は重大です。建物解体によるアスベスト災害を防ぐ運動と合わせて九州建設アスベスト訴訟をはじめ全国で係争中のアスベスト裁判勝利が大切です。

解体工事に潜むアスベストの恐怖
アスベストの危険性と裁判の重要性

日本産業衛生学会、日本公衆衛生学会に参加して



日本産業衛生学会 胆管がん報告から学ぶ

2013年5月に第86回日本産業衛生学会が愛媛県松山市で開催され、看護師の腰痛予防のためのノーリフトに関するポスター発表のため参加した。

印象に残った企画は、「胆管がんー新しい職業癌の発見」であった。すでに、オフセット印刷工の中に胆管がんが多発していることはマスコミを通して広く知られるようになった。しかし、最初の報告者の熊谷信二氏（産業医大）が報告する前は、胆嚢癌が職業性であることを疑う研究者、臨床医は皆無だった。そこを、労災被災者の支援組織の担当者の声を聞き、疫学的に作業と胆のうがんの因果関係を証明していった生々しい経過を初めて聞くことができた。報道にもあったように、62人の作業員の中から少なくとも6人が胆のうがんで死亡しており、日本人男性の年齢別の胆のうがん死亡率から予想される死亡数の何と2900倍も高率であった。予想される原因物質は、1,2-ジクロロプロパン（1,2-DCP）およびジクロロメタン（DCM）ということで今後研究が必要とのことだった。日本では年間35万人が死亡しているが、労働衛生の領域で古くから言われることだが、職業癌の可能性を疑う目と構えを持つことが大切であることを教えられた。そのためには、がんに対する全国規模の職歴データベースを構築し、疑わしい症例を掘り起こしていくなどの試みが必要だと思う。



看護師の腰痛予防に関する研究発表

ポスター発表は、千鳥橋病院で実践したノーリフトの効果に関する縦断研究の発表だった。140人の看護師を対象に検討し、結論としては、「介助補助用具を導入した介入群では、腰痛予防のための意識と行動の変化が有意に見られたこと。ベッドの高さ調節も、慢性期病棟は有意に見られた。こうした改善が、慢性期病棟の腰痛の低下に寄与した可能性が考えられた。」というものだった。

日本公衆衛生学会 健康の社会的決定要因

2013年10月には三重県津市で第72回公衆衛生学会が開催された。最近の研究動向だろうが、健康の社会的決定要因(SDH)に関する報告、シンポジウムが多い学会だった。興味深かった報告は、北海道大学の岸玲子先生の社会生活環境要因と子どもの健康・成長に関する出生コホート研究の報告だった。環境要因(PCB、ダイオキシン類)などは低濃度でも有意に児の出生体重、発達、IgE、感染症等に影響を与えること。胎児期化学物質の影響は生後18カ月以降は、精神発達では検出しにくくなり経済環境の寄与が大きくなるというものであった。諸外国では、社会経済的要因、環境要因の子どもへの影響に関する研究蓄積は多いが、日本でも同様の影響が確認された点で興味深かった。この他にも、ソーシャルキャピタル、非正規雇用の健康影響など多数の健康格差に関する議論がなされていたが、なぜ社会的な格差が人々の間で生じるのかという「Why」に迫る社会医学の議論が不足していたように感じた。

学会での発表は、全日本民医連加盟の医療

機関96施設で受診中の20歳以上40歳以下の2型糖尿病患者を対象に、社会経済的地位と糖尿病合併症の関連を検討したものであった。結論としては、「1、40歳以下の2型糖尿病患者に著明な肥満と高率の合併症を認め、若年の2型糖尿病に大きな病像の変化が起きている。2、40歳未満においても糖尿病早期発見のために、健診の受診機会の少ない人々への健診制度の整備が必要である。3、日本においても糖尿病合併症

と社会経済的地位の関連が示唆され、糖尿病対策として社会経済的な支援の視点が必要と考えられた。」というものである。会場では、行政関係の保健師さんも多いのか貧困と肥満、糖尿病との関係について現場で感じたことが裏付けられたという意見も聞かれた。



後継者育成が最重点課題！ 北九州ROUAN塾

働く人々のいのちと健康を守る活動は、働く人共通の課題で、この活動の輪を大きく広げることが重要です。

北九州労健連では次世代を担う後継者の育成が急務であると前期から議論を重ね、今期、労働安全衛生活動の後継者育成を最重点課題として位置づけ2013年6月1日から月1回の講座を開催していますので紹介します。今月末に全ての講座が終了し労健連総会に於いて修了式を行うことになっています。

1期生は17名で、建設、自治体、医療、印刷、情報機器、発電所、労連の各労働者や役員が塾生として登録し、参加しています。

第1課は働くもののいのちと健康を守る全国センター参加の木下恵市さん(京都)を招いて「労安活動を取り組めなくて、何が労働組合か」とインパクトのある表題で講演を行いました。この日は公開講座としていたので塾生を含め49名が参加しました。

第2課(7月27日)は「先輩や仲間の闘い」を聞いてグループワークを行い、また各自の問題意識・課題についてディスカッションを行いました。

第3課(8月31日)、全労働省労働組合福岡支部の原田泰伸さんを招聘し「職場環境改善～労働安全衛生法上の位置づけ等」を学び、労働時間・36協定について塾生自身が講師となりレクチャーを行い、ディスカッションをしました。

第4課(9月28日)は「解雇自由化は是か非か」をテーマに塾生が2チームに分かれてディベートを行い、肯定派・否定派ともチームで協力し活発な議論を行いました。その後、三輪俊和先生(健和看護学院学院長)から「新自由主義から新しい福祉国家へ～現代若



者の働き方、行き方を探る」というテーマで講演を受けました。

第5課(10月26日)は「職場改善に役立つ健康アンケート調査の質的向上を目指して」と題し、阿部眞雄先生から多くの示唆に富む講演を受け、3つの団体の具体的調査表の提示も受けグループワークを行い、発表をしました。

いよいよ今月末の第6課(11月30日)が最後となります。「労働の国際基準とは何か、日本における労働実態と労働者保護の現状を見つめ、国際労働基準と対比する視点で考える」というテーマで、いの建全国センター理事長の福地保馬先生を招聘予定です。

6つの講座を終え、労健連総会(12月14日)で塾生の発表と修了式でROUAN塾の全ての過程が終了します。塾生同士の繋がりが出来、労健連運動に関わる人たちが増えて行く兆しを実感しこの塾に関わったことが学びの場となりました。

また、5課の時に行った講師を囲んでの懇親会で塾生からこの塾で繋がった繋がりを大事にして行きたいと・・・次期のROUAN塾に自分たちも関わって行きたいという積極的な声を聞き・・・心地よい疲れを感じました。

2013年度評議員会&25周年記念レセプション

関わってこられた全ての皆様に感謝を

2013年8月3日に定期評議員会を開催し、2012年度活動総括・2013年度活動方針、2012決算、2013予算等全ての議案が採択されました。評議員からは未組織労働者の課題、HPHの取り組み、九州アスベスト訴訟原告拡大、九州セミナー in 大分の取り組み、その他沖縄、佐賀、長崎、宮崎から地域の課題が報告されました。

評議員会終了後、社医研設立以来お世話になった個人や団体、労組、民医連の皆様115名にご出席頂き、「25周年記念レセプション」を開催しました。田村所長の代表挨拶に続き、福地保馬先生（働くもののいのちと健康を守る全国センター理事長）より今日の労働者の現状についてのお話し、馬渡耕史先生（全日本民医連九州沖縄地協運営委員長）、福留英資氏（弁護士）、日高琢二氏（健和会労組委員長）の来賓挨拶、三宅昌先生（福岡民医連会長）の乾杯の音頭で開始しました。途中「開設25周年記念DVD」を上映



し、懐かしい当時の映像に笑顔の絶えない楽しい時間を過ごしました。また、多くの方々からスピーチを頂き、盛会に終了することが出来ました。

ご出席も含め、これまで関わった全ての皆様にあらためて感謝申し上げます。



評議員会

